

第六次高山村総合計画後期基本計画策定に係る提言書

Dグループ

宮前 やよ江、黒岩 千栄子、返町 琢見、佐藤 学

提言1 道路公共交通について

【概要説明】

- 現状、市街地に用事を済ませに行くにも、通学に使用するにも大変不便である。このことを改善するためにバスの本数を増やした所で利用者が増加するとは思えない。このことより好きな時間にいつでも利用できるタクシーが必要になってくる。
- 最低限、現状の公共交通をのこしつつ、個人の予定で(用事・通学など)利用したタクシー代の補助を実施してほしい。年齢層によって補助率を変更するもしくは補助対象者(高齢者や学生)を限定する。

【イメージする将来の姿】

年齢を問わず自分の予定で遠方まで出かけられるようになっている。また高齢者の免許返納率が上がり、高齢者の交通事故防止にもつながる。

提言2 防災について

【概要説明】

- 現在、鍵がかかっている施設に AED が設置してあり、もしもの時にすぐ使用できない。問題発生時にすぐに、誰でも使用できるような所に設置することが望ましいと思われる。(現在保管してある施設の外や消防団詰所などに設置)
- また有事の際に活動している消防団のなり手不足も問題になっている。現在、消防団員の定数割れや高齢化が続いている。消防団の必要性や有事の際は協力をしたいという意識を持っているが、「消防団は何をしているところなの?どんな組織なの?」と知らない年代もいる。また自分の時間・家族の時間を削ってまで消防団活動はしたくないという考え方が多いとも考えられる。ちょうどこの年代が消防団に入団してもらいたい年代であるとも考えられる。(20~30代世代)
- このことから現在行っている入団勧誘を実施しつつ(消防団募集のポスターや幟旗の掲示・パンフレット配布・広報による宣伝など)パンフレットや宣伝のやり方の修正を行う。(消防団のことをわからない村民のために活動内容・組織図・報酬など細かく記載)また各地区の区長ともっと綿密な協力を要望し、20~30代の世代に消防団の意義や活動内容・報酬など説明しつつ入団の勧誘を行ったかどうかと考えている。
- また現状の報酬だけでなく村独自の優遇税制制度や報酬の増加などの実施や機能別消防団の拡充を実施するとともにやりがいが出てくると考えられる。

【イメージする将来の姿】

有事の際は迅速かつ安全に対応できる体制ができ、設備も整い、村民が安心して生活できるようになっている。また誰もが憧れ入団したくなる消防団体制の構築を続けている。

提言3 空き家について

【概要説明】

- 空き家になってしまい管理されていない箇所が見受けられるようになってきている。このことにより近所迷惑や有害獣のすみかになってしまっている。将来のことを考えると下記対策を提言します。
- 村民主体の空き家対策委員会(仮)を設立する。事務局を役場におく。
また法律の問題などの観点より専門業者(不動産業者)にも参加をしてもらう。
- 委員会にて空き家の現状把握し、空き家の地主(もしくは次の世代)や1人暮らしの村民に今後、家をどうしていきたいのか?どうしたいのか?管理はどうしていくのか?などの要望をききとり、方向性を考えてもらうように促す。また役場にある定住支援室に相談してもらうようお願いする。

【イメージする将来の姿】

空き家の減少につながり景観が良く、美しい村になる。またリニューアルし移住者の誘致に使用する。
(村民増加効果が望める)

提言4 荒廃地・山林について

【概要説明】

- 管理されていない荒廃地・山林が目につくが景観が良くない。また有害鳥獣の発生場所となり農産物などに被害が出ている。以上のことより景観と有害鳥獣対策の観点から下記対策を提言します。
- 村民主体の荒廃地・山林対策委員会(仮)を設立する。事務局に役場の職員をおく。また法律の問題や農地再生などの観点より農業委員や専門業者(森林組合及び荒廃地を農地に整備・再生できる業者)にも参加をしてもらう。
- 委員会にて荒廃地・山林の現状を把握し、荒廃地・山林の地主(もしくは次の世代)に今後、荒廃地・山林をどうしていきたいのか?どうしたいのか?管理はどうしていくのか?などの要望をききとり、方向性を考えてもらうように促す。また役場の産業振興課農政係や林務・地籍調査課に相談してもらうようお願いする。

【イメージする将来の姿】

荒廃地の減少につながる。また山林の間伐により景観が良くなり、美しい村になる。また整備された土地は農家に紹介し使ってもらう。間伐によってでた木材は販売など行い収入を得られる。